

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	在宅酸素療法が導入された間質性肺炎の臨床的検討
研究責任者	聖隷浜松病院 呼吸器内科 中村 秀範
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院 呼吸器内科
研究期間	2017年 10月 1日 ~ 2020年 9月 30日
対象者	聖隷浜松病院呼吸器内科の外来または入院において在宅酸素療法が導入された症例（間質性肺炎含む）
研究の意義・目的	<p>慢性間質性肺炎の進行に伴い、線維化が進行して慢性呼吸不全になるあるいは肺高血圧を併存している場合などに在宅酸素療法の適応となる。慢性閉塞性肺疾患（COPD）と異なり、明らかな予後改善効果は認められていないが（Cochrane Database Syst Rev 2001; 3: CD002883.）、副作用も少なく、呼吸器症状の改善や健康関連 QOL の向上を期待して対症療法として積極的に用いられています。このように在宅酸素療法が導入される間質性肺炎症例は少なくないものの、その臨床像や予後に関するデータは少ないのが現状です。</p> <p>本研究では、在宅酸素療法が導入された間質性肺炎症例に着目し、在宅酸素療法が導入された他の呼吸器疾患との予後を比較し、また、間質性肺炎の画像パターンによる臨床像や予後を明らかにします。</p>
研究の方法	<p>研究デザイン 後方視的観察研究</p> <p>方法 対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行い、臨床像および予後に関して統計ソフト（JMP®）を用いて解析します。</p> <p>在宅酸素療法が導入された全症例：年齢、性別、喫煙歴、BMI、診断、在宅酸素の種類、設定値</p> <p>間質性肺炎症例：上記に加え、画像パターン（IPF または non-IPF）、重症度、GAP（Gender-Age-Physiology）スコア、血液検査（PaO<sub>2</sub>、KL-6、SP-D）、肺機能（FVC、DLco）、治療内容、急性増悪の有無、予後、死因</p>
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

係る手続き	
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 呼吸器内科 (氏名) 河野 雅人 TEL : 053-474-2222 (代表) 呼吸器内科外来 9 : 00~17 : 00 平日